

「温故知新」

JJ1SXA 池

CW はというか、無線はアメリカが発祥地ですから、良く使う符号、例えば、EとかTは、非常に短く作られています。

CW の良く使う符号は短く(和文のイロハは**48**文字で、アルファベットは**26**文字、欧文には無い符号、和文のロとかト等は、そんな原則は無視で作られたようですので、余り合理的ではありませんが。)のように、パソコンで標準的に使われている、いわゆる**QWERTY**配列(キーボード左上の「**Q**」から右に並ぶ計**6**個のキーが「**QWERTY**」になっているキーボードの配列)のキーボードは、良く使うキーを中央に集めて打ちやすい配列にしたと、一般的には思われています。

でも実際には、機械式のタイプライター全盛の時代、タイピストが速く打ちすぎて、タイプライターが壊れないように、わざと打ちにくい配列にしたのだそうです。

一般的に、常識として通用している事、あるいは、自分にはこれが常識と思っていることも、場合によっては間違いがありますし、時代と共に変わる場合もあります。

最高裁の判例でも、時代を経ると、正反対の判断をされたケースがありますし、その他の法律解釈においても、吟味されて成立した筈の条文が、時により、より広く解釈されたり、適用されたりという事で、今までとは違う場合があります。

難しい事は抜きにして、法律とか規則は何のためにあるのかと考えれば、人間が集団生活を送る上で、平和に、そして安全に過ごす等のためのものと言えると思います。

法律や規則を守るのは当然の事、そこまでいかない、ある集団(二人だけの場合でも)の約束事、それが暗黙の了解事項であったとしても、それを守るという事は、良き社会人として生きていくには、必要不可欠のことでしょう。

勿論、法律や規則、あるいは約束事も、時代と共に、より合理的に変えていく必要がある事は、言うまでもありません。

とは言え、古い事の方が良い場合も数多くあり、新しい事に対応すべきは当然ですが、どのように変わったか、何故変わったか、何故変えるかを知る必要もあるでしょう。

私の好きな言葉の中に、「温故知新」とか、「長幼の序」という言葉があります。

ご存知のとおり、「温故知新」は「ふるきをたずねて新しきを知る」ということで、「論語」が出典、「昔の事を調べて、そこから新しい知識や見解を得ること」と解釈するようです。「長幼の序」は、「儒教」における五倫(五常・五つの基本的な人間関係を規律する五つの徳目、「父子の親」「君臣の義」「夫婦の別」「長幼の序」「朋友の信」)の一つで、「年長者と年少者の間にある一定の秩序」が大事という事です。「朋友の信」も読んで字の如しに解釈すれば良いでしょうか。

「温故知新」の意味を把握し、常識を見直して、実践することも、現代の人間生活においては、必要な事では無いかと思いますが、如何でしょう。

HPE CU AGN 73 ES 88 GL !! de JJ1SXA

参考

(大辞林第二版より)

【論語】

中国、春秋時代の思想家孔子とその弟子たちの言行録。

【儒教】

仁を根本とする政治・道徳を説いた孔子を祖とする中国の教説。

【仁】

己に克ち、他に対するいたわりのある心。